【警告】
●適用対象(患者)
実際の血糖値より高値を示すことがあるので、以下の患者には使用しないこと。
＜その他の高血糖が原因でインスリン等の血糖降下剤を投与する場合に、＞
・糖尿病療養指導を実施中の患者(相互作用の項参照)
・プラドキシムヨウ化メチルを施與中の患者

【形状・構造及び原理等】
**1. 形状・構造

【使用方法等】
1. 使用方法

Gセンサーを取り出す
↓
測定器のセンサー挿入口にGセンサーを差し込む
（自動的に電流が入る）↓
測定状態の画面であることを確認する↓
採血を行う↓
表示が消えていることを確認する↓
Gセンサーの血液吸引部を血液に接触させる↓
測定が開始される↓
5.5秒後に測定結果が表示される↓
データレバーをスライドさせてGセンサーをはずす(自動的に電源が切れ)

測定器の使用方法は測定器付属の取扱説明書を参照してください。

2. 使用方法等に係る使用上の注意
①前医用採血器具をご使用いただく中前額からの採血による測定
が可能ですが、次のようないくとおは先達からの採血をしてください。
・運動の後など血糖値が急激に変化する可能性があるとき
・発汗や冷や汗、浮腫性、発熱など低血糖の症状があるとき
・血糖値が安定して、すぐに低血糖かどうかがわかる必要があるとき
・かぜをひいたときなど、体調の悪いとき
※厳重な血糖の変動が認められるとおり、前医の血糖変動は指摘より
遅れる場合があるという報告があります。
②感染の危険性があるため、採血部の消毒を必ず行ってください。
また、採血後は必要に応じてほんのうOhioなどで止血および保護して
ください。手心が赤くなるときは、早めに消毒してください。
③測定器は収納ケースから取り出し、温度10～40℃、湿度20～80%の
環境に20～30分以上放置してから測定してください。測定器を移動
した場合は、その温度差が大きい程なるまで時間を長く
ます。どちらでない場合、正しい測定結果が得られません。
また、温度変動の激しいところや湿度の高いところでは、測定器内
部に水蒸気が発生して正しい測定結果が得られません。
④Gセンサーを濡らした手で持ちたてください。正しい測定結果が得
られません。
⑤センサー挿入口の近くを触ったりしてください。このあたりには、測
定部を汚さないためにの保護センサーが内蔵されています。手の
ぬくもりの影響で正しい測定結果が得られません。
⑥Gセンサー、電池は乳幼児の手にならないところに保管または保管して
ください。(万一飲み込んだときは、直ちに医師に相談してください)
⑦水の中に落としたり内部に水分が流入した測定器は、たとえ乾燥さ
せてあたかも使用していないか、正しい測定結果が得られなかっ
たり、測定器が自動的に値を表示することがあります。
⑧センサー挿入口に血液や水分、ぼこりなどを入れないでください。
故障の原因になります。
測定の際には、ご使用になるGセンサーの取扱説明書をよくお読みく
ださい。
正しい血液の吸引量

血液の吸引量が少ない

テレビ、電子レンジ、低(高)周波治療器など、電磁波が発生する電子機器の近くでは正しい測定結果が得られないことがあります。電子機器の電源を切るか、1m以上離して測定を行ってください。

3. 併用可能な医療機器
測定に専用センサー「6センサー」をご使用ください。

【使用上の注意】
1. 重要な基本的注意
①指尖に採血する場合は、穿刺前に、必ず流水でよく手を洗ってください。
②異物等の糖分を含む食品などに触れられた後、そのまま指尖から採血すると指尖に付着した糖分が血液と混じり、血糖値が偽高値となるおそれがあります。
③以下のような末梢血流が減少した患者の指尖から採血した場合は、血糖値が偽低値を示することがあるため、静脈血等他の部位から採血した血液を用いて測定してください。
   - 脱水状態
   - ドック状態
   - 末梢循環障害
④ヨウ素を含む外用薬を使用した部位からの採血は避けてください。
2. 相互作用
キシロース吸収試験時の（血中濃度8 mg/dL以上の場合は）には実際の測定値より高い値を示します。キシロース吸収試験時には使用しないでください。

【保管方法及び有効期間等】
保管方法：温度0～45℃
耐用期間：5年間（自己認証による）
条件：使用上の注意をよくお読みになり、正しくご使用ください。

【保存・点検に関する事項】
保存条件：保存・クリーニング
センサーは、保存・クリーニング
センサーは、保存・クリーニング

84-04910E